

袁敏道団長挨拶

第2回中国大学生《走近日企・感受日本》訪日団一行36名が、中国日本商会、日中経済協会と商会会員企業の行き届いた手配の下、日本での10日間の見学と学習を終え、日本の友人の深い友情と素晴らしい思い出を胸に北京に戻ってまいりました。

今回の訪問は中日国交正常化35周年、中日関係がこれまでの膠着状態を打ち破り、大きく動き始めるという背景の中で実施されました。中国の有名大学5校から30名の大学生が、日本を更に理解し、日本に学び、中日交流に貢献すべく代表団に参加しました。10日間の日程の中で、代表団はそれぞれ特色のある企業8社を見学したほか、日本の農村や早稲田大学を訪問しました。日本の秋の美しい風景を愛で、山中の温泉も体験することができました。また、30名の大学生はそれぞれ日本人家庭の心温まるもてなしを受けました。代表団に参加した30名の中国の若者にとって、今回の訪問は日本の社会を全面的に理解するための貴重な機会であり、知識を深め、視野を広げ、また至近距離から日本を観察し、日本国民に中国の若者の姿を示すことのできた10日間でした。訪問日程は充実したもので、多くの収穫がありました。具体的なことは、それぞれ学生諸君の感想文に書かれていますので、ここで割愛させていただきます。

今年は中日平和友好条約の締結30周年にあたり、また中日青少年交流年と北京オリンピックが開催される年であります。昨年は両国首相による相互訪問が実現し、中日間の戦略的互惠関係が強化され、両国関係に良好な発展の兆しが見えて来ました。今年は桜の花の咲く頃に胡錦濤主席が日本を訪問することになっていますが、この訪問によって中日関係の発展が推進され、新たな段階に入るものと確信しております。今後も友人の皆様と共に、両国人民、特に両国の青少年の相互理解と友好を増進し、中日間の友好協力関係の長期かつ健全、安定的な発展のために新たな貢献をしていきたいと思っております。

最後に、この交流計画の実施のために大変なご支援とご尽力をいただきました中国日本商会の友人の皆様、並びに中日双方の関係者各位に対し改めて心より感謝を申し上げます。そして中国の大学生の日本訪問活動がますます成功し、中日友好の種子が両国の若者の心の中で花を咲かせ、実を結び、代々伝わっていくことを願ってやみません。

中日友好協会 副秘書長
第2回中国大学生訪日団 団長 袁敏道